

東公民館

ビデオ教室

平成12年度まさきふれあい学園ビデオ教室（平成12年7月19日～平成13年3月28日）が、東公民館を会場として、NHKで活躍された十亀先生を講師に迎え開講された。受講生は少数だったが、それだけに先生のアドバイスが個々によく行き渡った。

最初の講義で先生は、「撮影の素材は身近に無数にある。感動したものにカメラを向けるとよい。初心者のよくやる失敗は、カメラを振り回すことである。カメラを固定



▲熱心に画面を見、指導を聞く教室の様子

東古泉 早瀬辰郎

して撮影することが基本で、基礎技術をしっかりとマスターすることがビデオづくりを楽しむための早道である。」と話された。

講座の内容は、ビデオの楽しみ方から、ビデオの特性、カメラの扱い、撮影のテクニック、画面構成、簡単な編集等々と多岐にわたった。毎回の講座に課題が与えられ、それに応じた各自のビデオ映像をモニターに映し、課題が適切に表現されているか、見やすい画面にするには、など細かく個々にアドバイスを受けた。後半には、簡単な編集をして一つの作品づくりにも挑戦した。

教室の外では次のような野外活動を行った。

◎SLが北伊予駅へ停車したとき、撮影実習を行った。その時の情景を先生の指導を受けながらカメラに撮り、教室へ帰って勉強会を実施した。

◎ふれあい運動会に参加して、各自の見方で撮影を試み

▼ふれあい運動会での撮影風景



た。無計画に撮った数本のテープから、加藤博徳氏が内容を選択し、編集したビデオがNHKで放映された。

◎北伊予小学校の生徒と少年寄りとの竹馬づくりのビデオ撮りをし、簡単にまとめて教室の素材に提出し、指導を受けた。

最終の教室で、「あなたが制作者であり、監督であり、カメラマンであり、編集者である。21世紀に自分の作品を残そう。」との講話を受けた。

基礎技術が上達し、ビデオ撮りが変わってきたことを感謝しながら、楽しく大変役にたった教室を終えた。このような教室が、今後も継続し多くの方が参加されることを望みたい。

補導センターだより

”愚公山を移す”に習う

松前町青少年補導センター所長 山本宗一

昔、中国の黄河下流の北岸に太行山と王屋山という二つの高い山があつて、そのふもとに北山の愚公という90歳に近い老人が住んでいた。

日ごろから南側が山で閉ざされていたので、出入に難儀をしていたので、ある時家族一同を集めて、前方にある二つの山を崩して平らにしようかと相談した。妻は反対したが、子ども3人と老人と4人で箕やもっこで渤海の端まで土を運んでいった。往復に1年もかかった。

それを見て、知叟という老人が笑った。その仕事を止めさせようとして、「きみの愚かさ加減は話にもならない。老いぼれのわずかな力では山の草一本もむしれないのに、まして、土や石をいっただいどうしようというのだ。」といった。

すると、愚公は「お前はいくじなしだ。私が死んでも息子がいるし、孫も生まれる。孫はまた更に子を生むのであるから、子々孫々と仕事を受

け継げば、山のほうは増えることはないのだから、山を平らにできない道理はない。」と答えた。

冒頭こんな寓話をあげたのは、青少年の健全育成に関わる者に、大切なことを教えてくれているからである。

子どもの問題は、いつの時代にも、親や大人にとって悩みの種であった。しかし、こんなことでこの先どうなっていくのかと、親や大人たちを心配させながら、当の子どもたちは結構次代を担う成長を遂げていったものである。

確かに、眼前には非行問題が多くあり、なかなか減らない状態を呈しているのは事実である。更に、非行自体もそれを取り巻く環境も絶えず変化し複雑化してきている。

しかしながら、この寓話の如く、青少年の健全育成に関わる者がチームワークをとって、焦らず、急がずじっくりと対処していけば、いずれは大きな山も崩れるであろう。